

第1回日本薬学教育学会大会 開催報告

「薬学教育の原点～Science, Art, Humanity～」をテーマとして、第1回日本薬学教育学会大会（2016年8月27日～28日、大会長：乾 賢一、於：京都薬科大学）が開催された。大学のみならず医療現場や製薬企業など600名を超える参加があり、薬学人の研鑽の場として薬学教育のプラットフォームとなるべく本学会に対する大きな期待が感じられた。

27日午前中には、学会設立の会および第1回総会が開催され、約2年間の準備期間を経て正式に「日本薬学教育学会」が発足するとともに、代表世話人として乾 賢一氏の就任が承認された。

27日午後には、文部科学省および厚生労働省からの来賓による祝辞で第1回日本薬学教育学会大会が開会した。日本薬学教育学会設立の意義を中心とした大会長講演のほか、医学教育学会からの期待を込めた特別講演、薬学教育の今後の課題について考えるシンポジウム、さらにはワークショップおよび一般講演が行われ、活発な議論が展開された。

以下、学会設立の会、第1回総会および第1回大会の概要について報告する。

（1）学会設立の会

- ・ 開会の辞：市川 厚（武庫川女子大学薬学部）
- ・ 設立趣意書：中村 明弘（昭和大学薬学部）
- ・ 会則および細則について
- ・ 学会設立宣言：市川 厚（武庫川女子大学薬学部）



(2) 第1回総会

(第1部)

- ・ 開会宣言：中村 明弘（昭和大学薬学部）
- ・ 登録会員数、総会出席者数の報告
- ・ 議事録署名人の指名
- ・ 世話人の選出

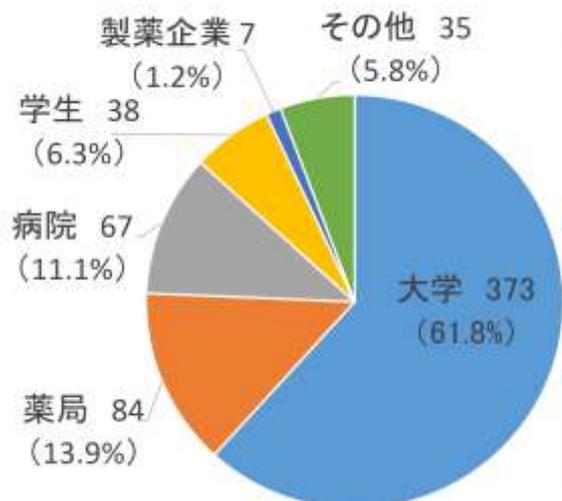
(第2部)

- ・ 代表世話人の選出報告と挨拶：乾 賢一（京都薬科大学）
- ・ 監事の選出
- ・ 2016年度事業計画について
- ・ 2016年度収支予算について
- ・ 第2回大会長について
- ・ 第2回大会長の挨拶：平嶋 尚英 先生（名古屋市立大学薬学部）
- ・ 閉会



(3) 第1回日本薬学教育学会大会

A) 参加者数 (604人)



B) 参加の所属施設数

区分	施設数
大学	76
薬局	51
病院	48
学生	19
製薬企業	4
その他	17



■ 開会式

大会長挨拶 乾 賢一 (京都薬科大学)

来賓祝辞

佐々木 昌弘 企画官

(文部科学省高等教育局医学教育課)

紀平 哲也 室長

(厚生労働省医薬・生活衛生局総務課医薬情報)



- **大会長講演** 「薬学教育の原点 -Science, Art, Humanity-」
乾 賢一（京都薬科大学）
- **特別講演1** 「医療系教育学会の使命：医学教育から薬学教育への期待」
鈴木 康之（岐阜大学医学教育開発研究センター）
- **特別講演2** 「医療人教育におけるプロフェッショナリズム
-何をプロフェスするのか-」
中島 宏昭（昭和大学医学部）



■ **シンポジウム1** 『薬学教育の充実・発展に向けた取組』

オーガナイザー：中村 明弘（昭和大学薬学部）
入江 徹美
（熊本大学大学院生命科学研究部）

- 「6年制薬学教育の現状と課題-第三者評価の結果より-」
平田 收正（大阪大学大学院薬学研究科）
- 「薬剤師国家試験制度の改善に向けた制度の検討」
赤池 昭紀（名古屋大学大学院創薬科学研究科）
- 「大学院博士課程の現状と課題」
賀川 義之（静岡県立大学薬学部）
- 「薬剤師レジデント研修プログラムの現状と課題」
橋田 亨（神戸市立医療センター中央市民病院）
- 「健康サポートに取り組む薬剤師の研修について」
長谷川洋一（名城大学薬学部）



■ シンポジウム2 『アウトカムを意識した薬学実務教育のこれから』

オーガナイザー：木内 祐二（昭和大学医学部・薬学部）
平田 収正（大阪大学大学院薬学研究科）

「医学部の臨床教育と臨床実習後OSCE」

北村 聖（東京大学大学院医学系研究科）

「アウトカムを実現する実務実習の取り組み」

木内 祐二（昭和大学医学部・薬学部）

「新たな実務実習指導薬剤師の育成

—学習成果基盤型教育に基づいた実務実習とは—

平田 収正（大阪大学大学院薬学研究科）

「アウトカムを意識した今後の実務実習と薬学共用試験OSCE」

橋詰 勉（京都薬科大学）



■ シンポジウム3 『薬学教育研究、事始め』

オーガナイザー：有田 悦子（北里大学薬学部）
亀井美和子（日本大学薬学部）

「教育研究の意義と課題—根拠に基づく薬学教育を目指して—」

藤崎 和彦（岐阜大学医学教育開発研究センター）

「薬学教育研究、事始め」にあたり—薬学教育研究にどう関わるか—

亀井美和子（日本大学薬学部）

「多変量解析を用いた学修成果の検討

—早期臨床体験におけるアンケートの解析—

串畑 太郎（摂南大学薬学部）

「薬学教育の中での質的研究

—学生の気づきを促す教育の構築のための研究とは—

半谷眞七子（名城大学薬学部）



■ シンポジウム4 『教育学・学習科学の現状と展望』

オーガナイザー：長谷川洋一（名城大学薬学部）
大津 史子（名城大学薬学部）

「アクティブラーニングの実践的課題」

中井 俊樹（愛媛大学教育・学生支援機構）

「問題解決能力育成を目指したPBLカリキュラム

「薬物治療学」の実践と学習効果」

大津 史子（名城大学薬学部）

「学習成果の直接評価と教育の質保証

－問題発見解決型歯科医療人の育成を目指して－

小野 和宏（新潟大学大学院医歯学総合研究科）

「専門家としての資質・能力を育む薬学教育の授業のすがた

－学習科学の知見から－

益川 弘如（静岡大学大学院教育学研究科）



■ プレコンGRESワークショップ (8月26日)

『症候からの臨床判断』

木内 祐二 (昭和大学医学部・薬学部)



■ ワークショップ1

『ジグソー法でジグソー法を学ぶ』

益川 弘如 (静岡大学大学院教育学研究科)



■ ワークショップ2

『World Café体験—薬学教育のコト、語りませんか?—』

石川さと子 (慶應義塾大学薬学部)



■ 一般演題 110題 + 大会特別企画 24題 (ポスター発表)



■ 懇親会



第3種開発型認可

薬学教育の未来議論
学会設立、京都薬科大で大会

教育に関わる大学教員や薬剤師で作る「日本薬学教育学会」が27日、設立された。基分野での教育学会は初めて。代表世話人には、監督一・京都薬科大名誉教授が就任し、第1回大会が京都市山科区の同大学で開かれた。

薬剤師を養成する薬学部が6年制となって今年で10年。良質な薬学教育の必要性の高まりを受け、大学入学から卒業にわたり、優れた薬剤師や研究者を育てる教育を議論する。

監督一は、設立を記念した講演で、京都大医学部付属病院で薬剤部長を務めた経験を振り返りながら、適切な薬剤処方への薬剤師の役割は増していると指摘。その上で、「臨床薬学に求められるのは、科学の知見と技術と人間性」と強調し、多角的な視点から薬学教育について考える重要性を訴えた。

その後、薬学教育の現状に関するシンポジウムを開催。神戸市立医療センター

中央市民病院の橋田孝薬剤師長は、薬剤師の資格取得後に臨床現場で研修する同病院のプログラムを紹介。卒業後も学び続ける必要性を強調し、「薬剤師の研修においても、研修医制度のまことに公的助成を受けられ

る仕組みを目指したい」と制度の改革や大学・大学院での教育の分析に関する報告者から、薬剤師国家試験一告があった。(広瀬一穂)

京都新聞 2016年8月28日